宝塚記念出走予定外国馬プロフィール

◆ ワーザー（Werther、漢字表記：明月千里）＝ 香港

せん 7 歳・鹿毛（ニュージーランド産　2011 年 10 月 2 日生まれ）
父：Tavistock ＝ 母：Bagalollies（母の父：Zabeel）
馬主　　：J. チェン
調教師　：J. ムーア
騎手　　：H. ボウマン
通算成績：全 30 戦 10 勝、2 着 8 回、3 着 5 回
総獲得賞金：約 7 億 7,650 万円

主な戦績：	’17 チャンピオンズ&チャターカップ（香 G1）	1 着
	’17 香港ゴールドカップ（香 G1）	1 着
	’16 クイーンエリザベス II 世カップ（香 G1）	1 着
	’16 香港ダービー（香ローカル G1）	1 着
	’17 香ジョッキークラブカップ（香 G2）	1 着
	’15 イーグルファームカップ（豪 G2）	1 着
	’15 チャンピオンシップステークス（新 G2）	1 着
	’18 香港ゴールドカップ（香 G1）	2 着
	’17 香港カップ（香 G1）	2 着
	’16 香港クラシックカップ（香ローカル G1）	2 着
	’16 香港クラシックマイル（香ローカル G1）	2 着
	’15 クイーンズランドダービー（豪 G1）	2 着
	’15 サウスオーストラリアンダービー（豪 G1）	2 着
	’18 香スチュワーズカップ（香 G1）	3 着
	’17 クイーンエリザベス II 世カップ（香 G1）	3 着
	’16 チャンピオンズ&チャターカップ（香 G1）	3 着

ニュージーランド北島のケンブリッジに拠点を構えるアンドリュー・キャンベル調教師ら数名で組まれたシンジケートの生産所有馬として、ワーザーは同厩舎から 2014 年 1 月にデビューしますが、2 歳シーズンは 2 戦して未勝利でした。3 歳シーズンに入って 4 戦目、2015 年 2 月の未勝利戦（アワプニ、芝 1,400m）で初勝利を挙げると、その 2 戦後の条件戦も勝利。マナワツクラシック（アワプニ、新 G3、芝 2,000m）2 着を経て臨んだ 4 月のチャンピオンシップステークス（エラズリー、新 G2、芝 2,100m）で重賞初制覇を飾ります。11 頭立ての不良馬場で行われたここは 2 番人気に推され、4 コーナーで馬群を割るように進出すると直線半ばで先頭に立って 1 馬身差の勝利を収めました。

この後オーストラリアに渡り、5 月にアデレードのモーフェットヴィル競馬場で行われたサウスオーストラリアンダービー（豪 G1、2,500m；重馬場）に駒を進めると、シュウェップスオークスの優勝馬で断然

人気のデリカシーから 1 馬身半差の 2 着。続くブリスベンのドゥームベン競馬場が舞台のイーグルファームカップ（豪 G2、2,200m）では残り 200m で抜け出し、後続に 2 馬身 1/4 の差をつけて重賞 2 勝目を挙げました。古馬相手のここは斤量も軽く、2 番人気タイでした。この後同じ競馬場のクイーンズランドダービー（豪 G1、2,200m）に進むと 1 番人気に推されますが、中団の内から抜け出しを図るものの、外から伸びたマジクールに 3/4 馬身差及ばず 2 着でした。

4 歳になると香港に移籍して、現在の馬主、調教師となり、以降はシャティン競馬場のレースに出走します。移籍初戦の 12 月、エイシンプレストンハンデキャップ（芝 1,600m）は 8 番人気タイと伏兵扱いでしたが、4 番手から残り 200m で先頭に立って 1 馬身半差の勝利で香港デビューを飾ります。2016 年を迎えて香港 4 歳シリーズに進みますが、初戦の香港クラシックマイル（香ローカル G1、芝 1,600m；2 番人気）は前が詰まる場面もあり、先に抜け出したサンジュエリーからクビ差の 2 着、続く香港クラシックカップ（香ローカル G1、芝 1,800m；1 番人気）は 4 コーナーで他馬と接触してバランスを崩した後猛追しますが、やはりサンジュエリーにアタマ差届かず 2 着でした。しかし、香港ダービー（香ローカル G1、芝 2,000m）は 5 番手から外を回って進路を確保すると、残り 200m で先頭に躍り出てビクトリーマジックとの競り合いをアタマ差制して 1 番人気に応え、世代のトップに立ちました。

次いで日本馬 3 頭を含む古馬相手のクイーンエリザベス II 世カップ（香 G1、芝 2,000m）に挑むと、ラブリーデイに次ぐ 2 番人気に支持されます。ここは 13 頭立ての 9、10 番手からとなりますが、内から抜け出すことに成功すると残り 300m は独壇場。稍重の勝ちタイムは 2 分 1 秒 3、後続につけた着差の 4 馬身半はレース史上 2 番目に大きいものでした。シーズン最終戦となったチャンピオンズ&チャターカップ（香 G1、芝 2,400m）は断然人気に推され、3 番手から先頭を窺いますが、後続 2 頭にかわされて短アタマ差 3 着まで。それでも、クイーンエリザベス II 世カップで歴戦の G1 馬らを相手に圧巻のパフォーマンスを見せたことが評価されて、この年の年度代表馬に選出されます。

しかし、5 歳シーズンを目前に控えた調教後に他馬を蹴りにいこうとして脚を傷め休養入り。期待された 12 月の香港国際競走には間に合わず、2017 年 1 月の香スチュワーズカップ（香 G1、芝 1,600m）で復帰を果たします。ここは前シーズン全戦で手綱を取ったヒュー・ボウマン騎手から、同じくオーストラリア出身で新進気鋭のサミュエル・クリッパートン騎手に代わり 5 番人気でしたが、中位の内から直線では進路が開かなかったこともあり 3 馬身 1/4 差の 6 着。次いで翌月の香港ゴールドカップ（香 G1、芝 2,000m）はボウマン騎手に戻って 4 番手追走から、4 コーナー手前で他馬に寄られる不利がありますが、力強く追い込んで最後は短アタマ差し切って 1 番人気に応えました。

この後、ドバイ遠征の可能性もありましたが、国内に留まり、4 月のチェアマンズトロフィー（香 G2、芝 1,600m；2 番人気）にクリッパートン騎手鞍上で出走。4 コーナーでは進路が狭くなる場面もあり、後方から 3 馬身差の 4 着まで。3 週後のクイーンエリザベス II 世カップはボウマン騎手を背に現地、日本ともに 1 番人気でしたが、向こう正面で先頭に躍り出た日本のネオリアリズムを捕えられず、最後はパキスタンスターにかわされて半馬身差の 3 着でした。続くシーズン最終戦のチャンピオンズ&チャターカップ（2 番人気）は、引き続きボウマン騎手が騎乗し、7 頭立て 3 番手から直線入り口で先頭を視界に捉えると、最後は 3 馬身の差をつけて優勝し、その後の年次表彰では最優秀ステイヤーに選出されました。

今シーズンの 2017/18 年シーズンは 10 月のシャティントロフィー（香 G2、芝 1,600m）から始動し、オッズ 1 桁台に 7 頭がひしめくここは 4 番人気。中位から伸びを欠いて 2 馬身 3/4 差の 6 着に終わり

ますが、続く香ジョッキークラブカップ（香 G2、芝 2,000m）は 8 頭立て 4 番手から、直線ではタイムワープとの競り合いをクビ差制して人気に応えました。こうして大一番の香港カップ（香 G1、芝 2,000m）を迎え、現地、日本ともに 1 番人気。中位から伸びてネオリアリズム（3 着）には 1 馬身半先着したものの、逃げ切ったタイムワープに 2 馬身 1/4 の差をつけられて 2 着でした。この 3 戦はトミー・ベリー騎手騎乗でした。

2018 年に入り 1 月下旬の香スチュワーズカップ（香 G1、芝 1,600m）はボウマン騎手が手綱を取り、向こう正面で 2 番手まで押し上げますが、最後はもうひと押しが利かず 3/4 馬身差の 3 着。ここは 13 頭立ての 6 番人気でした。続く 2 月の香港ゴールドカップはタイムワープを抑えて 1 番人気に推され、前走に続いてボウマン騎手を背に 9 頭立て 5 番手追走から逃げた同馬に詰め寄りますが、半馬身差の 2 着まで。勝ちタイムの 1 分 59 秒 97 はコースレコードで、ワーザーの入線タイム 2 分 0 秒 07 も従来のレコードを 0 秒 03 更新するものでした。しかし、レース後鼻出血が確認されて 3 か月の出走停止となり、目標のクイーンエリザベス II 世カップへの出走は不可能となります。

陣営は新たなターゲットとして、一昨年、昨年と稍重で行われた宝塚記念に狙いを定め、6 月 3 日のライオンロックトロフィー（香 G3、芝 1,600m）でワーザーを復帰させます。10 頭立てで最も重いハンデを背負っての 3 番人気でしたが、ダグラス・ホワイト騎手と初コンビを組んだここは内の 7、8 番手から、直線ではなかなか進路が開かなかったこともあり、4 馬身 1/4 差の 6 着に終わりました。

11 年ぶりに管理馬を日本に送り込むジョン・ムーア厩舎の看板を背負うワーザーは、キャリアを通じて 2,000m 以上は 14 戦して 7 勝、2 着 5 回、3 着 2 回、稍重～不良馬場は 4 戦して 2 勝、2・3 着各 1 回とともに 4 着以下がなく、距離と梅雨時期という点で宝塚記念はこの馬にとって理想的な条件と言えそうです。

【血統】

父タヴィストックはモンジュー産駒として 2010 年ワイカトスプリントなどニュージーランドで 1,400m の G1 を 2 勝。同年に種牡馬入りし、2011、12 年を除いて毎年 100 頭以上に種付けし、主な産駒にワーザーのほか、2015 年ヴィクトリアダービーと 16 年ローズヒルギニーで豪 G1・2 勝のタージノがいる。母バガロリーズはニュージーランドで 17 戦して 2,000～2,100m で 2 勝。ワーザーは母の 2 番仔で、全弟に昨年の新 G3 ニュージーランドカップ（3,200m）勝ちのゴブストッパー、全妹に今年の新 G1 ニュージーランドオークス（2,400m）3 着のミルシーンがいる。母の父ザビールは 1990 年オーストラリアンギニー優勝馬で、主な産駒に直近の 3 シーズン連続でニュージーランドのリーディングサイアーに輝いたサヴァビールがいる。

（Photo: The Hong Kong Jockey Club）

2017 年チャンピオンズ&チャターカップ（香 G1）

宝塚記念出走予定外国馬関係者プロフィール

■ ワーザー（Werther）

● 馬主：ジョンソン・チェン（Johnson Chen / 漢字表記：程凱信）

個人名義でこれまで 3 頭を所有し、現役馬はワーザーを含め 2 頭。共同名義では 2 頭（ともに引退）を所有したが、そのうちの 1 頭ロドリコは豪 G1 クイーンズランドダービーの 2 着馬で、香港移籍後はジョン・ムーア調教師に預託された。

● 調教師：ジョン・ムーア（John Moore / 漢字表記：約翰摩亞）

1950 年 3 月 17 日生まれの 68 歳。オーストラリアのシドニー出身。「ムーア一族」と称され、父であるジョージ・ムーアは、シドニーで騎手として活躍した後、調教師として、香港において 11 度のリーディングトレーナーとなった。また弟のゲイリー・ムーアは、騎手として香港において 7 度リーディングジョッキーであった。ジョン自身はアマチュアジョッキーとして活動後、父の厩舎のアシスタントトレーナーを務め、父の引退に伴い 1985 年に引き継いだ。

これまで香港で 1985/86 年、90/91 年～92/93 年、94/95 年、2010/11 年、14/15 年と計 7 度リーディングトレーナーの座を獲得しているほか、直近 12 シーズン連続で獲得賞金はトップになっている。また、香港の調教師として初の通算 1,000 勝を達成。

これまでミリタリーアタック、デザインズオンローム、エイブルフレンド、ワーザー、ラッパードラゴンと 5 頭の年度代表馬を輩出するなど、数多くのタイトルを獲得している。冬の香港国際競走は 2017/18 年の今シーズンを含め、香港カップを 2 勝、香港マイルを 3 勝、香港スプリント・香港ヴァーズを各 1 勝、春はクイーンエリザベス II 世カップを 5 勝、チャンピオンズマイルを 7 勝したほか、シンガポールエアラインズインターナショナルカップを 2013 年にミリタリーアタック、2014・15 年にダンエクセルで、ドバイゴールデンシャヒーンを 2014 年にスターリングシティで制している。

今シーズンは、ビューティージェネレーションで香港マイル、クイーンズシルバージュビリーカップ、チャンピオンズマイルを制するなど、6 月 13 日現在、461 戦 31 勝でリーディング 12 位、獲得賞金はジョン・サイズ、アンソニー・クルーズに次ぐ 3 位。

これまで日本には安田記念に延べ 3 頭を出走させ、ジョイフルウィナーが 2006 年 3 着、07 年 9 着、エイブルワンが 07 年 12 着。

● 騎手：ヒュー・ボウマン（Hugh Bowman）

1980 年 7 月 14 日生まれの 37 歳。ニューサウスウェールズ州出身。ポニー乗馬やポロクロス（ポロとラクロスを合体させたスポーツ）で馬に慣れ親しむ。1996 年に同州のウェリントン競馬場で初勝利。翌年シドニーのロン・クイントン調教師のもとに拠点を移すと、1999/00 年シーズンには 57 勝（同着 1 回含む）でシドニー地区の見習騎手リーディングに輝く。2004 年のドゥームベンカップ（ディファイア）で G1 初勝利。

2006/07 年以降は 5 位以内に入り、シドニー地区でトップジョッキーとしての地位を確立する。2008/09 年にキャリアハイとなる 98 勝で待望のチャンピオンタイトルを獲得。その後も 2011/12 年、14/15 年、16/17 年にリーディングでトップに立った。近年は特にウィンクスとのコンビでコックスプレート 3 連覇を含む G1・18 勝を挙げ、オーストラリアで獲得した G1 タイトルは 70 以上に上る。同国の年次表彰で 2012/13 年、14/15 年、15/16 年、16/17 年に年間 G1 最多勝騎手賞を受賞したほか、昨年は 2017 年ロンジンワールドベストジョッキーに輝いた。

海外でも実績を積み重ね、イギリスでは 2007 年に 303 戦で 33 勝を挙げたほか、同年のシャーガーカップでは個人別のポイントでトップに立ちシルバーサドル賞を受賞するとともに、世界選抜チームを優勝に導いた。香港でもワーザーで 2016 年に香港ダービー、クイーンエリザベス II 世カップ、2017 年に香港ゴールドカップ、チャンピオンズ＆チャターカップを制し、2017 年のチェアマンズスプリントプライズはラッキーバブルスで優勝した。日本でも 2015 年から毎年短期免許を取得して騎乗。2017 年ジャパンカップをシュヴァルグランで制するなど、5 月 27 日現在、JRA 通算 176 戦 23 勝の成績を残している。